



音声週間憲章©

音声週間協会が目的としているのは、音声、他者や世界との関係、そして環境的や社会的側面、医療、経済、産業、そして文化において個人の基礎的バランス要素であると各人が意識するよう導くことです。当協会は、音声は世界への扉であると考えています。

健康、音声環境、録音と音響技術、映像と音声の関係、そして音楽と音声による表現が、関連項目を構成する5つの主要分野です。

1. 健康

聴覚の限界は、人間の持つ聴く力を考慮してレベルを拡張することができません。耳にはまぶたがなく、人間は絶えず世の中の音を聴いていて、その世界は音響システム、視聴覚や近くの音、多くの場合継続的に増長するノイズのレベルに依存しています。

- 学校教育以降、大音量で長時間、頻繁に繰り返しての音楽視聴を継続的に行うことにより起こる、聴覚低下加速のリスクについてお伝えします。
- 偶発的に起こりうる耳鳴りや聴覚過敏を伴うなどの、聴覚における劇的な影響；分裂症、うつ病、社会への適応障害など、についてお伝えします。
- ストレス、血圧、睡眠と集中力における、不要なノイズの影響を認識します。
- 新生児期そして生涯にわたって聴覚テストを体系的に行います。優れた聴力と理解力は、基礎学力の習得と、家庭や社会環境へ適合するための必要条件です。
- 補聴器の利用を奨励します。
- 生理学、聴覚、補聴器の分野で科学的研究を支援します。

2. 音声環境

音声環境は、個人的及び集団の行動に影響を与えますので、私たちがバランスを保つ為必須要素の一つです。ノイズを制限し、聴く為の雰囲気を整え、音響空間を管理し、音源の多様性を強化することは、より良く共存するための今日の条件です。世界中の高密度化や都市化は、音声空間に対する専門家や生活環境が変化する当事者である市民へ懸念を投げかけます。

- 影響を制御するために、環境に耳を傾けます：集中力、静穏、暴力...
- 温度でいう摂氏のように、音声レベルの段階をお知らせします。
- 個人及び集団生活や都市インフラの構想や構造の中で音声に快適に適応できるよう、音響能力を促進させます。
- 音響及び音声データを都市計画に統合します（道案内、地元の都市化計画、閑静地...）。
- 特に学校などの公共施設において、音響を配慮した処置に社会的優先順位を設けます。
- 街のサウンドマップを開発します。
- 記念の場所となり未来の音楽的アイデンティティを示す風景の創造ともなる、地域の音の観測所をつくります。
- 音声環境の質に特化した革新的な産業を優遇します。

3. 録音と音響技術

音響システムの電子技術は私たちの生活に導入され、その裏にある機能や隠れた技術などを知る由もなく馴私たちに染んでいます。しかしながら、録音や再生の手段はいつでもどこでも個人のプライバシーに侵入することができます。

《ダイナミック音響》と言われる音響効果は、音楽を聴いたり、濁さずに賑やかな中でも話したりするのに使用されます。本来の目的が転じたあまりに高度な音響効果は、聴き手に息をする間も許さず、疲れ果てた聴き手が聴くことを実行する力もなく、意志とは裏腹に次第に侵襲され、受動的にメッセージを受けるようになってしまいます。

- 学校のプログラムの中に音声教育を盛り込み、音源の劣化の原因を意識させ、スピーカー自体が楽器ではないことを認識させます。
- 録音及び音響技術の設備や文化について、専門家を育てます。
- コンサート中や公共放送中に、雑音の程度を低減しより良い均一性のある結果を得るよう、マルチキャスト技術を優先的に行います。
- オリジナル品質により近い音源の録音及びダウンロードを推奨します。
- 音楽の持つニュアンスを尊重し、録音にはダイナミック音響を最小限にすることを推奨します。
- 音声の遺産となるアーカイブを構築し、それを社会の発展のキープレイヤーとみなします。

4. 映像と音声の関係

オーディオビジュアルやマルチメディアへのアクセスが一般化する中で、音声は視覚と最終的な品質の重要要素です。音声の創造は、オーディオビジュアル作品やライブパフォーマンスにとって不可欠な一部を成します。

- 音声の質は視覚の質を定義すると子供達に教育します。
- 個人的または集会的マルチメディア機器の音響品質を向上します。
- テレビ、ラジオ、映画全てのプログラム間の音声レベルを調整します。
- 地域全体において、快適な音響とマルチ音響効果を備えた映画館の開発を奨励します。
- 全てのイベント音響において、その音響品質の統合を図ります。
- クリエーションにおいて、音声専門家の貢献を認識します。

5. 音楽と音声の表現

声や楽器による音楽表現は、自己及び他者に耳を傾けることにより、個人でも集団でもその均衡を保つ要素です。研究者は、人生のあらゆる場面で、音楽演習がどの段階で認知能力の開発と維持に寄与するのかを示しています。

音楽の演習は学習能力や記憶力を高め、特に子供達にはそれ以外のスキル取得にも関係します。

- 音楽の演習とは、個人または集団的な開発、出会い、そして社会的つながりの要素であると認識させます。
- 集団で行う音楽演習は、暴力や差別を排除する方法の一つであるとして注力します。
- 音楽の演習を、音響感覚の基礎を開発するものであるとみなします。
- 小学校から大学、家庭や社会において、音楽の演習を奨励し促進します。
- 音声芸術を世界の文化的要素と認識した上で、芸術的演習を拡大します。
- 全ての新設校や大学において、集団の音楽演習に適した場所を設計します。
- 技術や革新的な教育方法を通して、音声の創造性を開発します。